



|              |                                                                                                                                                 |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Title        | 脳性麻痺児における股関節脱臼の治療                                                                                                                               |
| Author(s)    | 梶浦, 一郎                                                                                                                                          |
| Citation     | 大阪大学, 1970, 博士論文                                                                                                                                |
| Version Type |                                                                                                                                                 |
| URL          | <a href="https://hdl.handle.net/11094/30325">https://hdl.handle.net/11094/30325</a>                                                             |
| rights       |                                                                                                                                                 |
| Note         | 著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、<a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">大阪大学の博士論文について</a>をご参照ください。 |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

|         |                          |         |         |         |
|---------|--------------------------|---------|---------|---------|
| 氏名・(本籍) | かじ<br>梶                  | うら<br>浦 | いち<br>一 | ろう<br>郎 |
| 学位の種類   | 医                        | 学       | 博       | 士       |
| 学位記番号   | 第                        | 2064    | 号       |         |
| 学位授与の日付 | 昭和45年4月20日               |         |         |         |
| 学位授与の要件 | 学位規則第5条第2項該当             |         |         |         |
| 学位論文題目  | 脳性麻痺児における股関節脱臼の治療        |         |         |         |
| 論文審査委員  | (主査)<br>教授 水野祥太郎         |         |         |         |
|         | (副査)<br>教授 恩地 裕 教授 曲直部寿夫 |         |         |         |

## 論文内容の要旨

### 〔目 的〕

脳性麻痺児にはかなり高い頻度に股関節の病的脱臼がみられ、それが起立・歩行能力を障害する大きな原因となっている。しかし従来これに対し詳細な研究はなされておらず、治療法は先天股脱の経験をもとにそのまま応用したためあまりにも成績が悪く、むしろ放置されることが多かった。そこで著者は、病的脱臼の原因を知るため、股関節の形態的变化、筋力バランス、脊髓性小児麻痺との比較、従来の手術法などの検討を行ない、その原因を、股関節の内転筋力<外転筋力、屈曲筋力>伸展筋力の筋力関係であるとの仮説をたて、それを改善するべく腸腰筋後方移行術を行ないその成績を追求した。

### 〔方法ならびに成績〕

1才から18才までの470例の脳性麻痺児の股関節について検討する。

求心性異常は126例(26.8%)にみられ、このうち脱臼は23例(4.9%)、亜脱臼は28例(6.0%)、側方転位は75例(15.9%)である。

#### 1. 病型別求心性異常の分類

痙直型には30%、アテトーゼ型には22.3%に求心性異常がみられ、特に脱臼、亜脱臼は痙直型には14%、アテトーゼ型には6.6%と痙直型がより多くみられる。

#### 2. 股関節形態異常

前捻角、臼蓋角が大きく、頸体角は正常かまたは軽度減少しているのがその特徴であるが、この変化は、年齢が大になるに従って著明になり、求心性異常があれば更に増強する。このことはこれらの形態異常が麻痺による2次的な変化であることを想像させる。

3. 従来の手術方法は単に形態異常の矯正のみをはかっており、筋力のバランスを積極的に正すことをしていない。すなわち、臼蓋形成術、観血整復術、骨切り術などであり、そのすべては再脱臼を

おこしている。内転筋力を弱めることのみは従来から行なわれているが、これとても再脱臼をまぬがれ得ない。

#### 4. 脊髄性小児麻痺における筋力バランスと病的股関節脱臼の関係

45例の脊髄性小児麻痺を検討した結果、脱臼している3例はすべて、屈曲筋力>伸展筋力、内転筋力>外転筋力の関係にあり、他の筋力平衡では脱臼しているものは1例もなかった。

#### 5. 脳性麻痺児の股関節筋力の平衡

脳性麻痺においてはその麻痺の性質上、量的にその平衡関係を明らかにすることはできないが、内転筋、屈曲筋が外転筋、伸展筋よりも強い例が大部分である。それは特に痙直型において著明である。

#### 6. 手術症例

先天股脱の手術治療の経験に加えて、屈曲・内転筋力を低下せしめ、外転・伸展筋力を強めるため、腸腰筋後方移行術を併せて行なった。術後最短2年、最長4年間の追跡を行なった25例、33関節の成績は、再脱臼は1例もなく、すべて求心性は改善しており、24関節(73%)は正常である。

術後の支持性、起立姿勢は19例(76%)が改善しており、運動機能では5例(20%)がひとり歩き可能、18例(72%)が起立可能となっている。

#### 〔総括〕

従来殆んど絶望視されていた脳性麻痺児の股関節脱臼に対し、腸腰筋後方移行術を行ない筋力平衡をかえた結果、再脱臼は1例もなく、なかには術後自然に整復して来た例もみられることは、その脱臼の原因が、筋力平衡のくずれとする仮説の妥当性をしめすものであり、その原因的治療法が確立されたものといえよう。

### 論文の審査結果の要旨

脳性麻痺児に多く見られる股関節脱臼はその歩行機能を大いに障害するものであるが、治療は殆んど絶望とされていた。本論文は、その治療に腸腰筋後方移行術を応用することにより原因的治療法を確立したもので脳性麻痺児のリハビリテーションに大いに貢献するものと思われる。